

平成 31 年度
(2019 年度)

自己点検・評価報告書

平成 31 年(2019 年) 4 月 1 日から
令和 2 年(2020 年) 3 月 31 日まで

令和 2 年(2020 年)4 月 30 日

学校法人吉田学園
北海道スポーツ専門学校

■平成31年度 自己点検・評価について

〈説明〉

本校が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、校訓や学校の目標と教育の実態とを照らし合わせ、自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行いました。

1. 対象期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

2. 委員会開催

第1回 令和2年4月24日(金)

第2回 令和2年5月1日(金)

3. 実施方法

(1) 実施組織: 自己点検・評価委員会

委員長: 中川 尚之 北海道スポーツ専門学校 校長

委員: 橋本 直樹 北海道スポーツ専門学校 副校長

濱田 光 北海道スポーツ専門学校 部長

高山 理香 北海道スポーツ専門学校 副部長

(2) 評価基準: 文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法: 学則、教務内規、学習のしおりや学生便覧に記載されている校訓や指導規定などと照らして各種評価を行い、自己点検・評価委員会を開催し、学校として自己点検・評価を取り纏めています。

4. 評価項目

(1) 教育理念・目標

(2) 学校運営

(3) 教育活動

(4) 学修成果

(5) 学生支援

(6) 教育環境

(7) 学生の受け入れ募集

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

(10) 社会貢献・地域貢献

(11) 国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価しました。

4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切

(2) それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題、対策について報告いたします。

1 学校の教育目標

自立・実践 ～主体性ある学びができる人材の育成～

(以下、「学生便覧」より抜粋)

専門学校は社会人としての心構え、知識、スキル、マナーを学び、社会に出て即戦力となる人材を育成する場です。学校生活がその実践の場であるとの認識をもち、学生としての甘えを捨て、ひたすら自分の将来像に向かうことに集中しましょう。

そのために、出来るだけ他人(親や先生等)に頼ることなく、自らの意思で行動できる学生として、学校生活を送ってほしいと思います。例えば、

- 他人から言われて“学習や検定”に取り組むのではなく・・・
- 他人から言われて“挨拶やマナー”を身につけるのではなく・・・
- 他人から言われて“就職活動”(面接練習や就職先の研究等)に取り組むのではなく・・・

「何事にも自立の精神をもって実践し、複雑な人間関係や組織等、時代の変化が激しい社会に果敢に立ち向うことが出来る人間に育ててほしい」との願いから、学校目標を“自立・実践”としました。皆さんが自分の夢に一步ずつ前進出来るような行動、頑張り、成長を期待しています。

※教育の三本柱 「 就職 ・ 資格取得 ・ 部活動 」

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1 入学者数の増加

学校で取り込まれる全てが広報活動に関係することであることを理解し、全職員が協力体制で臨む。

2 離脱率の減少

離脱(退学、休学等)率を減少(目標数値達成)させるために、学生指導の更なる充実を図り、学生との密接な係わり合いやモチベーション継続支援を強化する。

3 高い就職率

安定した就職率(目標数値達成)の維持継続のために、就職指導充実、様々な手法や考え方でアプローチする。

4 資格取得率の向上

資格へのモチベーションを維持・向上させるべく、教職員一丸となり計画的かつ組織的に取り組み、目標とする資格取得率を達成する。

5 部活動の充実と発展

部活動を通した人間形成及び、在校生の満足度を上げるための部活動運営に取り組む。

6 附帯教育施設(スポーツプラザ iB)運営

スクール生の平均在籍数および最大数を向上させる。学生スタッフレベルの底上げのための定期研修等を開催する。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------------|
| (1)-1 学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | 4 |
| (1)-2 学校における職業教育の特色は何か | 3 |
| (1)-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3 |
| (1)-4 学校の理念・目的・育成する人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 3 |
| (1)-5 学校の教育目標、育成する人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 |

① 課題

(1)-2 (1)-3 (1)-4

日々変化する社会背景と業界ニーズ等に対応すべく、学校の将来構想(教育の特色の発展等含む)を適宜、具体的なものとして明確に打ち出し、共有が必要である。

② 今後の改善方策

(1)-2 (1)-3

「中期学校計画(2019年度～)」を活用し、学校の特色や社会(業界)ニーズ等を見据えた学校の将来構想および安定した学校経営・学校運営のために必要な見直しやブラッシュアップ等継続して協議を進めていく。

(1)-4

教育理念、教育目的、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについては、2020年度入学生より「学習のしおり(シラバス)」にそれらを明示する。

③ 特記事項

2019年度の取組みとして、教育理念、教育目的、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに関するプロジェクトを立ち上げ、見直し整備を実施し完了した。

(2) 学校運営

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------------|
| (2)-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| (2)-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 |
| (2)-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| (2)-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか | 4 |

| | |
|---------------------------------------|---|
| (2)-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| (2)-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| (2)-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| (2)-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項
特になし

(3)教育活動

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|---|------------------------------------|
| (3)-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 3 |
| (3)-2 教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| (3)-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| (3)-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 2 |
| (3)-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| (3)-6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 |
| (3)-7 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| (3)-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| (3)-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 |
| (3)-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 3 |
| (3)-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 |
| (3)-12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |

| | | |
|--------|---|---|
| (3)-13 | 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3 |
| (3)-14 | 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 3 |

① 課題

(3)-1

教育理念、教育目的、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、2020 年度スタートの新コース専攻については、年次進行も鑑みながら、最善な具体策等を継続検討していく必要がある。

(3)-4

教育方法の工夫・開発までには至っていない。今後は充実した ICT 教育に対応すべく能力開発が必要である。

(3)-10 (3)-13 (3)-14

資格養成適応コースカリキュラムをベースに、主に集中科目として対策講座等が設定されており、今年度はカリキュラム体系図まで整備がなされた。指導体制(担当教員の授業スキルアップ・教育力強化に繋がる関連分野における研修等の実施・参加、組織的管理等)やそれによる資格取得率向上には課題が残っている。(3)-4 にもあるように ICT 教育手法を活用すべく研修・研鑽は急務である。

② 今後の改善方策

(3)-1

2020 年度スタートの新コース専攻については、随時、教務内におけるプロジェクトチーム等で具体策の継続検討を重ね、運営会議や職員会議にて教職員と共有を図る。

(3)-4

各種研修会を活用し、教育方法の工夫・開発に引き続き取り組んでいく。(特に ICT 教育推進関連)

(3)-10

担当者間における指導連携体制の強化はもちろんのこと、「教育基軸(授業運営)やそれに付随する各種研修会・勉強会による授業スキル、授業力の強化」、「管理者を交えた経過点(各期の目標点)における到達度合いの確認や修正見直し」等、計画的かつ組織的に取り組む。

(3)-13

研修等への積極的な参加を促し、先端的知識・技能の修得及び実践(展示会、セミナー参加)をすることにより、自身の指導法等の改善に結び付け、学生支援の向上、教員としての資質・能力向上を図る。研修会等への参加については、予算化し学校としても可能な限りの支援・協力をしていく。(特に ICT 教育推進関連)

(3)-14

各種研修会を活用し、また学校独自の研修会等を開催することで自己研鑽機会を提供する。(特に ICT 教育推進関連)

③ 特記事項

特になし

(4) 学修成果

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|---|------------------------------------|
| (4)-1 就職率の向上が図られているか | 3 |
| (4)-2 資格取得率の向上が図られているか | 2 |
| (4)-3 退学率の低減が図られているか | 3 |
| (4)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 |
| (4)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 |

① 課題

(4)-1

目標設定値は達成できたが、全対象学生の就職決定には至らなかった。

(4)-2

主要資格については、合格目標値には遠く及ばなかった。他の資格についても十分な安定感とは言えない。また、各資格検定における傾向分析、評価等の取り組みも不十分である。

(4)-3

改善が図られ目標設定値を達成できたが、今後も学生状況の把握・変化の早期発見、情報共有に努めていく。

② 今後の改善方策

(4)-1

教育基軸(就職支援)を活用しながら、「担当者会議の定例開催による、教員間の情報交換・共有と協体制強化」、「学内合同企業説明会の充実」、「組織的(担任→担当者→役職者)連携」等、様々な手法や考え方で段階的なアプローチを行う。

(4)-2

対策の強化を図り、同時に資格へのモチベーションを維持・向上させるために、「学内模擬試験を充実し時期による習熟度の把握・段階的指導」、「外部模擬試験の活用や新書籍の購入」、「補講実施」、「決起会の開催」、「教育基軸(授業運営)やそれに付随する各種研修会・勉強会による授業スキル、授業力の強化」、「管理者を交えた経過点(各期の目標点)における到達度合いの確認や修正見直し」等、計画的かつ組織的に取り組む。

(4)-3

学生指導の更なる充実を図り、「クラス担任の定期的な個別面談実施による学生状況把握」、「特別講演等の開催を計画・実施」、「教育基軸(学生指導)を活用した教員間の連携、情報共有」等、学生との係わり合いやモチベーション継続支援を強化する。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------------|
| (5)-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 |
| (5)-2 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| (5)-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 |
| (5)-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| (5)-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| (5)-6 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| (5)-7 保護者と適切に連携しているか | 4 |
| (5)-8 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| (5)-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 |
| (5)-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |

① 課題

(5)-8

相談、問合せがあった際には、可能な範囲で対応している程度

② 今後の改善方策

(5)-8

今後も相談、問合せに対しては、最大限の情報提供にて継続対応する。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------------|
| (6)-1 施設・設備・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| (6)-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |
| (6)-3 防災に対する体制は整備されているか | 4 |

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

2019年12月に対象設備の入替完了

(7)学生の受入れ募集

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| (7)-1 学生募集活動は、適正に行われているか | 3 |
| (7)-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 |
| (7)-3 納付金は妥当なものとなっているか | 4 |

① 課題

(7)-1

前年度、学生募集は改善が図られ、更なる改善を目指し、学校全体が広報を意識することとその浸透を徹底しながら活動は行われたが、定員確保には至らなかった。

(7)-2

資格取得率等、教育成果としては不十分であり改善が求められるものがあつた。

② 今後の改善方策

(7)-1 (7)-2

学校で取り組まれる全てが広報活動であることを理解し、「オープンキャンパス参加者の満足度向上(高い出願率)」、「高校(顧問)との接点強化およびセレクションへの誘導」、「産業界との連携のPR」、「あらゆる教育活動(資格取得率等)における結果の追究」等を主に全職員が協力体制で臨む。

③ 特記事項

引き続き、定員充足を意識して、より計画性を持って業務に当たることが必須である。

(8)財務

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|--------------------------------|------------------------------------|
| (8)-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 2 |
| (8)-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 2 |
| (8)-3 財務について会計監査が適正に行われている | 4 |
| (8)-4 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

① 課題

(8)-1

ここ数年は定員確保に至っておらず、財務基盤の安定が図れていない。

(8)-2

予算・収支計画については、有効性や妥当性をより慎重に判断しながら進めていく。

② 今後の改善方策

(8)-1 (8)-2

学校力を高めそれを募集活動に結び付けられるよう、より一層注力する。併せて離脱者の抑制にも最善を尽くす。

③ 特記事項

特になし

(9)法令等の遵守

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| (9)-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| (9)-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| (9)-3 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか | 3 |
| (9)-4 自己点検・評価結果を公開しているか | 4 |

① 課題

(9)-3

問題点の改善に関する取り組み等は進められているが、継続性が不十分な部分も見受けられる。

② 今後の改善方策

(9)-3

短期(年度)から中長期的に、改善すべき課題や問題点の優先順位の高いものから、計画的・

段階的かつ組織的に取り組んでいく。

③ 特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------------|
| (10)-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 |
| (10)-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| (10)-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 3 |

① 課題

(10)-3

札幌市東区との地域連携協定に基づいた各種連携事業は順調に継続され、良好な成果として表れているが、公開講座・教育訓練等という形での実施には至っていない。

② 今後の改善方策

(10)-3

公開講座等の依頼があれば、可能な限り受託・実施し、更なる地域貢献機会を創出していく。

③ 特記事項

札幌市東区との地域連携協定の他、札幌市豊平区「介護予防サロン」等、高齢者へのボランティア活動も継続している。

(11) 国際交流(令和元年度の留学生在籍なし)

| 評価項目 | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------------|
| (11)-1 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか | — |
| (11)-2 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | — |
| (11)-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | — |
| (11)-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | — |

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項
特になし

総括

各種項目において取り組みを実施したが、「1 入学者」については学校全体が広報を意識することとその浸透は職員会議などを通じて、徹底できていたと思われるが、必達目標の達成には至らなかった。

「2 離脱率」「3 就職率」については目標達成したと判断できる結果であったが更なる向上を目指したい。

「4 資格取得率」について、主要資格は目標設定値を達成するには至らず大きな開きを埋められていない。他の資格についても十分な安定感とは言えない。また、各資格検定における傾向分析、評価等の取り組みも改善の余地がある。よって対策の強化を図り、同時に資格へのモチベーションを維持・向上させるために、「学内模擬試験を充実し時期による習熟度の把握・段階的指導」、「外部模擬試験の活用や新書籍の導入」、「補講実施」、「決起会の開催」、「教育基軸(授業運営)やそれに付随する各種研修会・勉強会による授業スキル、授業力の強化」、「管理者を交えた経過点(各期の目標点)における到達度合いの確認や修正見直し」等、計画的かつ組織的に取り組む必要がある。

「5 部活動」については野球が全国大会 3 位・東日本選手権北海道代表権を獲得、卓球女子選手シングルス全国 3 連覇、バドミントン女子団体全国 3 位・女子ダブルス全国優勝、陸上女子全国総合 2 位、女子選手 3 冠(100M、200M、400M)等の数々の結果を残したが、全国大会に出場できず悔いが残った部活動もある。また指導者のスキルアップについてはサッカー、野球以外では積極的な活動は見られなかった。

「6 附帯教育施設(スポーツプラザ iB)運営」についてはスクール生平均在籍数や最大在籍数の目標達成には至らなかった。スタッフの質向上の取組は行っているが、大きな成果までは至っていない。マシンジムが大幅にリニューアルされたことにより会員満足は向上している。